

科目名 (英文表記)	ファイナンスⅢ (金融機関マネジメント) (Finance III)		
科目区分	発展科目	単位数	2 単位
担当教員名	齋藤一郎	ナンバリング	MBA_E_FI 6331
研究室番号	340	研究室電話番号	27-5345
Eメール・アドレス	ichiro@res.otaru-uc.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的： 本授業は、大括りに二部構成をとります。モジュール1～3では、金融取引の意義や金融取引に伴う諸々の困難を議論の口火切りとして、銀行がそれらの困難をいかにして解決し資金を円滑に融通するのかを、銀行のビジネスモデルに即して解説します。ここでは、銀行のビジネスモデルを理解するための基本的な視座を養うことを到達目標とします。なお、モジュール1～3の授業では、初学者の履修も念頭に置きながら、主として講義形式によって進めます。 モジュール4～8では、銀行のビジネスモデルに関わる理解を踏まえて、銀行財務の分析 (Excelのシートでフォーマットはお渡しします) やマクロ経営環境や競争環境に関する定性的な分析をグループワーク形式で行います。個別具体的な銀行や信用金庫を分析の俎上に載せ、収益性や健全性を財務的な側面から把握するとともに、PEST分析や業界構造分析、SWOT分析など既習の分析フレームワークを援用して、銀行経営の実態を把握するとともに、そこに内在する経営課題とその打開策について検討を加えます。したがって、モジュール4～8の到達目標は、銀行経営が直面する経営課題を見だし、戦略的な打開策の構想力の涵養することに置かれます。			
使用教材： テキストは特に指定しません。 本科目において利用する文献ならびに各種資料・データについては、manaba上で、別途指示します。なお、授業の内容 (モジュール1～3) について、予め概括的なイメージを掴んでおきたいと思う向きは、さしあたり下記の文献を参照してください。 内田浩史『金融』有斐閣、2016年 村瀬英彰『金融論 [第2版]』日本評論社、2016年			
成績評価の方法： 成績評価については、以下のとおりです。 授業への参画度合い：20% (主として、授業時における発言、グループワークにおける貢献を以て評価します) 事前・事後の課題：80% (モジュール1～3の終了後に課す事後課題10%×3、モジュール8終了時に提出する分析レポート50%) なお、評価に不服のある場合には、不服申立書を以て、教務委員長に申し出てください。			
履修上の注意事項： 授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して進行しますが、変更・修正等の必要が生じた場合には、manaba上において、逐次お知らせします。			

授業の内容及び方法

モジュール1		金融取引と情報の不完全性
事前準備	オリエンテーション資料ならびにモジュール1講義資料に予め目を通し、金融取引における情報の不完全性について、概括的なイメージをつかんでおくこと。	
第1時限	金融取引とは何か	
<p>第1時限では、「異時点間の交換」や「リスク移転」をキーワードに、金融取引が交換経済において果たす役割を取り上げる。金融取引とは何か、金融取引が存在することの経済的な意義は何かを考える。</p>		
第2時限	金融取引と情報の不完全性	
<p>第2時限では、金融取引の成立を阻害する「情報の不完全性」を取り上げる。「情報の不完全性」（情報の非対称性および不確実性）とは何か、「情報の不完全性」に起因してどのような問題が生じるのかを概説し、金融取引が帯びている性質について考える。</p>		
復習	モジュール1の内容に即して、基本概念の理解度を確認するための課題（穴埋めならびに記述）を課す。あらかじめ指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	

モジュール2		金融取引とその阻害要因
事前準備	モジュール2講義資料に予め目を通し、情報の非対称性に起因する金融取引の困難について、概括的なイメージをつかんでおくこと。	
第3時限	金融取引の阻害要因 ～情報の非対称性①	
<p>第3時限では、金融取引の成立を阻害する要因のひとつである「情報の非対称性」を取り上げる。「情報の非対称性」とは何か、事前的な「情報の非対称性」に起因してどのような問題（逆選択）が生じるのか、発生した問題に対して、経済主体はどのように対処するのか（情報生産 [スクリーニング]）を議論する。</p>		
第4時限	金融取引の阻害要因 ～情報の非対称性②	
<p>第4時限も引き続き、金融取引の成立を阻害する要因のひとつである「情報の非対称性」を引き続き取り上げる。事後的な「情報の非対称性」に起因してどのような問題（モラルハザード）が生じるのか、発生した問題に対して、経済主体はどのように対処するのか（情報生産 [モニタリング]）を議論する。</p>		
復習	モジュール2の内容に即して、基本概念の理解度を確認するための課題（穴埋めならびに記述）を課す。あらかじめ指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	

モジュール3		金融システムのアーキテクチャー
事前準備	モジュール3講義資料に予め目を通し、金融仲介の基本機能（情報生産機能、資産変換機能）について、概括的なイメージをつかんでおくこと。	
第5時限	銀行中心の金融システム ～銀行システムの機能	
<p>金融システムは、「情報の不完全性（情報の非対称性および不確実性）」や「契約の不完備性」に起因する様々な困難を解消ないし緩和し、資金の円滑な融通を実現するための仕組みと定義することができる。第5時限では、銀行システムが果たす役割に焦点を当てて議論を展開する。</p>		
第6時限	市場中心の金融システム ～証券会社・証券市場の機能	
<p>第6時限では、金融システムのもう一つの類型である「市場中心の金融システム」について取り上げる。ここでは、証券市場が金融取引を円滑化する基本的な仕組みを解説した後、システムが機能するための諸条件について考える。</p>		
復習	モジュール2の内容に即して、基本概念の理解度を確認するための課題（穴埋めならびに記述）を課す。あらかじめ指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	

モジュール4		銀行のビジネスモデル
事前準備	拙稿「銀行ビジネスモデルのフレームワーク」に予め目を通し、銀行のビジネスモデルについて、概括的なイメージをつかんでおくこと。	
第7時限	銀行のビジネスモデル：概説	
<p>金融取引のボーダレス化や金融行政に関わる諸々の方針が変化する中で、銀行のビジネスモデルもまた変革を迫られている。第7時限では、銀行のビジネスモデルを如何に把握するか、ビジネスモデルを変革する際の端緒をどこに求めるかを議論する。</p>		
第8時限	銀行の収益メカニズム：概説	
<p>第8時限では、銀行のビジネスモデルに関わる議論を踏まえて、道内金融機関のビジネスモデルについて概説する。資金運用・調達構造ならびに損益構造に関わる理解は、モジュール5以降で行うケース分析、とりわけ銀行財務の分析のいわば前提となるものである。</p>		
復習	あらかじめ指定した金融機関のディスクロージャー誌に基づき、所定の財務分析用の作業シート（Excelファイル）に、財務分析に必要なデータを入力すること。	

モジュール5		銀行経営の戦略評価（Ⅰ）
事前準備	データ入力済みの財務分析用の作業シート（Excelファイル）に基づいて、あらかじめ指定した金融機関の資金運用・調達構造ならびに損益構造について概括的な分析を行い、その結果を指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	
第9時限	銀行財務の分析（1）	
第9時限では、事前準備に基づいて、あらかじめ指定した金融機関の資金運用・調達構造ならびに損益構造に係わる分析結果についてのプレゼンテーション行ってもらい、全体ディスカッションを通して、財務上の論点把握を行う。		
第10時限	銀行財務の分析（2）	
第10時限では、あらかじめ指定した金融機関の資金運用・調達構造ならびに損益構造についてグループワークを行う。個別具体的な金融機関を検討素材に、財務的な側面から金融機関経営の現状を把握するとともに、金融機関経営に内在する問題点を明らかにする。		
復習	モジュール5での議論を踏まえて、金融機関の資金運用・調達構造ならびに損益構造に係わる分析をブラッシュアップすること。	

モジュール6		銀行経営の戦略評価（Ⅱ）
事前準備	PEST分析や業界構造分析のフレームワークを駆使して、あらかじめ指定した金融機関を巡るマクロ経営環境・競争環境について概括的な分析を行い、その結果を指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	
第11時限	銀行経営を巡る外部環境（1）	
第11時限では、事前準備に基づいて、あらかじめ指定した金融機関を巡るマクロ経営環境・競争環境に係わる分析結果についてのプレゼンテーション行ってもらい、全体ディスカッションを通して、外部環境上の論点把握を行う。		
第12時限	銀行経営を巡る外部環境（2）	
第12時限では、あらかじめ指定した金融機関を巡るマクロ経営環境・競争環境についてグループワークを行う。個別具体的な金融機関を検討素材に、銀行経営を巡る外部環境をPEST分析や業界構造分析など、ケーススタディやビジネスプランニングの授業で学んだ各種分析フレームワークを援用して整理・把握する。		
復習	モジュール6での議論を踏まえて、金融機関のマクロ経営環境・競争環境に係わる分析をブラッシュアップすること。	

モジュール7		銀行経営の戦略評価（Ⅲ）
事前準備	価値連鎖分析やSWOT分析等のフレームワークを駆使して、あらかじめ指定した金融機関の内部要因ならびに既往戦略の評価について概括的な分析を行い、その結果を指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。	
第13時限	銀行経営の戦略評価（1）	
<p>第13時限では、事前準備に基づいて、あらかじめ指定した金融機関の内部要因ならびに既往戦略の評価に係わる分析結果についてのプレゼンテーション行ってもらい、全体ディスカッションを通して、内部要因ならびに既往戦略上の論点把握を行う。</p>		
第14時限	銀行経営の戦略評価（2）	
<p>第14時限では、金融機関の内部要因ならびに既往戦略上の論点把握を踏まえて、あらかじめ指定した金融機関が直面する経営課題とその解決策を巡ってグループワークを行う。グループワークに際しては、価値連鎖分析やSWOT分析のほかに、マーケティングミックスやビジネスフロー構築など、既習の各種分析フレームワークを援用して論点の把握や議論の整理を行う。</p>		
復習	モジュール7での議論を踏まえて、既往戦略の評価とともに、金融機関経営に内在する経営課題とその解決策についての議論をブラッシュアップすること。	

モジュール8		プレゼンテーションと討論
事前準備	manaba上で別途指示する分析レポート作成要領に従って、ケース分析レポートを作成し、指定した期日までに、manaba上にアップロードすること。モジュール8でのプレゼンテーションに向けて発表準備すること。	
第15時限	プレゼンテーションと討論	
<p>モジュール8では、作成したケース分析レポートの発表と討論を通して、金融機関の戦略評価と将来展望についての理解を深める。なお、プレゼンテーションと討論の時間が不足すると判断される場合には、第16時限を設けることがある。</p>		
復習	モジュール8での議論を踏まえて、作成した分析レポートをブラッシュアップし、レポートの最終バージョンを所定の期日までに manaba 上にアップロードすること。	